

第66号
2010年1月

風

発行

群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大手町3-19-3

「風」はホームページでもご覧いただけます
<http://gunma.kenren-coop.jp/>
Eメール: mail@gunma.kenren-coop.jp

新年を迎えて

群馬県生協連女性協議会
会長 林 かの子



新年明けましておめでとうございます。

旧年中は女性協の活動にお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。

昨年は、各生協における共同参画の取り組みが進むよう運営委員会の充実に努め、地連の男女共同参画懇談会に参加し先進事例を学ぶなど、学習と交流に取り組みました。

視察研修では平和を考え、JAぐんま女性組織協議会との交流では他団体の取り組み状況を学び、参加して下さった皆さんも想いは同じである事を知りました。

暮らしを振り返りますと、多くの方が望む正規雇用の拡大はなく、学生の就職状況も大変厳しくなっています。将来に対する不安が大きくなる中、個人消費は冷え込み、生協にもその影響が表れています。新型インフルエンザの拡がりも不安のひとつとなりました。

明るい話題のない中、国政の場では政権交代がありました但し私達の想いが届くのかまだ不明の所があります。

また、昨年は男女共同参画基本法施行から10年となりました。内閣府によりますと、あらゆる人が人として尊重され、あらゆる活動に参画でき、責任も担う社会の実現をめざした10年ですが、実効・運用が捗らないとの報告がありました。

現実には、就労による経済的自立が不可能な人が増えるなど逆方向に進んでいるように見えます。



今私達は食料や環境・平和も含め、どんな社会で生きたいのかをしっかりと考え行動することがますます重要になっています。女性協では一人ひとりがその人らしく安心して生きられる社会の実現をめざし、生協が大きな力を発揮出来るよう学習や交流に取り組みたいと思います。

今年もよろしくお願い致します。

J Aぐんま女性組織協議会との交流会を開催

11月20日(金)

J A邑楽館林女性理事さんや女性会連絡協議会の皆さんとも交流

秋も深まった11月20日、今回で3度目となるJ Aぐんま女性組織協議会（以降「J A女性協」という）と県連女性協議会との交流会が行われました。



「ぼんぼこ」小川店長にお話しをお聞きました

最初に、つつじで有名な館林のつつじが丘公園の近くのJ A邑楽館林農産物直売所『ぼんぼこ』を訪問し、小川店長さんから概況をお聞きし、見学を行いました。

続いてJ A邑楽館林の会館で活動交流と意見交換会が行われ、参加者はJ Aぐんま女性協から5名（齋藤正江会長ほか）、J A邑楽館林から塩田俊夫組合長はじめ2名の女性理事、J A邑楽



交流会のようす

館林女性会連絡協議会から4名（間々田・野本副会長ほか）県連女性協議会から8名、他各事務局職員5名の25名が参加して熱の入った交流会になりました。

《参加者の感想を紹介します》

女性協運営委員 吉田寿美子（コープぐんま）

農産物直売所「ぼんぼこ」では、店長さんよりお店の設立準備から現在、またこれからの運営など説明がありました。新鮮で安全・安心な野菜を中心に「物とこころの豊かさ」を提供し、生産者と消費者がお互いに喜んで利用できる施設としていて、活気ある店づくりに努力している感じが感じられました。また、生産者協議会など女性の参加が多いというお話でした。

（やっぱり主婦ですね！見学あとのお買い物にはみんなつつい熱が入っていましたね。）

交流会ではJ A邑楽館林の塩田組合長さんも参加され、それぞれ自己紹介と活動報告があり、その後意見交換を行いました。女性理事の皆さんのお話からうかがえるのは家庭の中でも仕事（農業）でも男性に負けない働きをしているのに、農協など会議の意思決定の場に参加しにくい、意見を聞いてもらえないなど不満があることです。「農協の女性理事の定数枠は今の2名から増やすことはないが、組織から力をつけて出てきてほしい」との塩田組合長さんの言葉でしたが、可能ならぜひ頑張りたいと願います。

男女共同参画の気づきの場作りとして今回の交流会は意義のあるものであったと思います。

女性協運営委員 秋山ユミ子（生活クラブ生協）

交流先であるJ A邑楽館林農産物直売所「ぼんぼこ」を先に訪問した。（地域農業振興対策として、幅広い生産者の参画と消費者の「共生」を目的とした直売所である）

小川店長が直売所の説明をしてくださり、開店してちょうど1年の直売所は販売高4億9000万円を計画を上回っている。なかでも、地元野菜が売上の50%をしめている。人気の要因は①鮮度優先②産直・顔の見える関係③元気で綺麗な店舗だ。この直売所の1つのコーナーに、生活クラブ生協のワーカーズ『野いちご』が店内加工施設で調理した惣菜・弁当を販売しているのでより応援したい施設だった。



次に、J A邑楽館林の本部に場所を移しJ Aぐんま女性組織協議会、J A邑楽館林の役員や女性会連絡協議会の方々と交流会を行った。J A邑楽館林の理事45名中、女性が2名だというのは驚きである（少ない！と思ったが、聞けば他のJ Aに女性理事はほとんどいないという）。家庭の中では女性の力が発揮されているが、外ではまだまだ“女のくせに”の古い体質が色濃いため、どこにもありがちなことだが、J A組織のなかでの活動にもその一端を感じた。

塩田俊夫組合長も参加して生の声を聞いてくださったことは意義があったと思う。今後組織は異なるが「男女共同参画～男女が支えあってより良い生活をするには」の視点で運動を共にしていければと思った。

中央地連第2回男女共同参画懇談会に参加

特定非営利活動法人ジェン（GEN）木山啓子事務局長が講演

11月13日(金)

中央地連第2回男女共同参画懇談会が11月13日に東京四ツ谷のプラザエフで開催され、講演会やパネルディスカッションに女性協から3名が参加して活動交流と学習を行いました。特定非営利活動法人ジェン（GEN）木山啓子事務局長の「スマイル 誰もが大事にされ笑顔でしあわせに生きられる世界をめざして」と題する講演は参加者に感動を与えました。またパネルディスカッションはパネラーの皆さんがリーダーとして生き生き活躍されているようすや、地域活動の広がりを実感できました。

紛争・災害地域の復興支援の国際活動を行っているジェンの木山啓子事務局長の講演から、特に印象深かったことを感想を交えて以下に報告します。



木山啓子さん

紛争や災害のとき、緊急支援から開始し、人々が生活を立て直して地域社会を再生し、経済環境を整え、復興が軌道に乗るまでをしっかり支える息の長い地道な活動が続く国際支援は、10年以上はかかるものです。ジェンのプロジェクトでは必ず地域のニーズを確認し、地域の文化とのかかわりに合わせ、自立を阻害しない自立支援を行っています。

大事なことは、井戸や学校をただ作るのではなく、現地の人々が必要とするものを、もし住民間どうしの反発があるなら徹底的に話し合ってもらい、住民どうしが協力して作り、住民自身がそのあとの管理までできることを確認してスタートすることです。その過程では、ジェンは黒子に徹した支援を行い、いずれその地からいなくなることを理解してもらうことだそうです。

また、家族を亡くした人々の心のケアにも力を入れています。生きる気力さえ失った人が、自然にグループに近づけるように配慮しています。どういうことかということ、家族を失い一人取り残されてしまった人は、もう自分のために頑張ることはできないそうです。でも、他の人のため、同じように辛い思いをしている誰かのために役に立つことなら頑張れるようになるのだそうです。

木山さんの講演には感動させられました。

女性協副会長 岸みちよ（はるな生協）

第41回群馬県生協大会が開催されました

日生協医療部会副運営委員長日野秀逸先生が講演

10月29日(木)



第41回群馬県生協大会が10月29日、生協の組合員・役職員など271名が参加して前橋テルサで開催されました。

表彰式などのあと、第二部で、日本生協連医療部会副運営委員長の日野秀逸先生（写真：東北大学名誉教授・国民医療研究所所長・医学博士）の、「日本の医療・福祉を考える」と題する講演をお聞きしました。先生は、日本の医療政策の現状や、医療生協と国民の医療運動に期待されていること、民主党政権の医療政策分析、日本の医療生協とその運動などを、パワーポイントを使って分かりやすく話してくださいました。講演を聞いた参加者の感想をご紹介します。

いま、日本の医療の総合成績は、世界でもトップクラスの評価がされているらしい。しかし、それは医療労働者の超人的な忍耐とギリギリのバランスによって支えられている。さらに小泉政権によって補助金を削られるなどして、自治体病院でさえ成り立たなくなっている。

こうした中、総選挙が行われ、医療で言えば年齢で差別する「後期高齢者医療制度」の廃止を訴えた民主党を中心とする政権が誕生した。今後、この政権がこうした約束を守るのかどうかは、私たち国民が声をあげていくかどうかにかかっているということだ。

最後の、「世界の協同組合運動のなかでも、日本の医療生協運動は、提供する側と利用する側が一緒につくる運動として冠たるものだ」というお話しに、医療生協に携わる者として大きな勇気もらった思いがした。

林 誠行（利根保健生協 組織課）

コープぐんま

子育て世代のパパ・ママを応援する「子育て学習会」を開催



「子どもの歯と健康」をテーマにはるな生協歯科診療所の間々田先生をお招きして、10月2日「子育て学習会」を開催しました。16名のお母さんと11名の0歳から3歳までの乳幼児が参加しました。コープぐんまが子育て世代のパパ・ママを応援する企画の3回目です。



「口と歯の基礎」や「初めての歯科医院へのかかり方」、「歯が抜けてしまったとき」などの救急時の対応の仕方、「歯磨き習慣のつけ方」などお母さんの関心のあるお話をさせていただきました。

お話のあと実際に11名の乳幼児と一緒に、歯科衛生士さんによる「歯磨き指導」をしていただきました。お母さんたちは「歯のことはとても気になっていたの、タイムリーでした。ていねいにゆっくりお話くださったので、とてもわかりやすかったです。」「説明がしっかりしていて話が良く分かった。これから子供も私もしっかり歯みがきを続けたいと思う。」などの感想が寄せられました。

コープぐんまは子育て世代のお母さんたちが、安心して子育てができる環境を作り、お母さんたちの自立と社会参加を促す取り組みを今後も続けていきます。

(情報提供：コープぐんま 組合員活動グループ)

お米を使った
おいしいレシピ
米粉で作るヨーグルトケーキの巻

第7回

材 料 (直径14cmのざる 1個分)

| | |
|----------------|-------------|
| A | |
| ヨーグルト(水切りしたもの) | 100g |
| 卵黄(Mサイズ) | 2個分 |
| サラダ油 | 大さじ1 |
| B | |
| 米粉 | 50g(1/2カップ) |
| コーンスターチ | 大さじ3 |
| ベーキングパウダー | 小さじ1 |
| 卵白(Mサイズ) | 2個分 |
| 砂糖 | 55g(1/2カップ) |

準 備

ヨーグルトは約1時間おいて水切りする。
卵を卵黄と卵白に分ける。
A,Bはそれぞれ混ぜ合わせておく。
オーブンは170度に温めておく。

ヨーグルトはキッチンペーパーを敷いたざるに入れて水切りします。(約1時間で半量になります)

作り方

- ① 卵白を水分や油分が一切ついていないボウルに入れ、泡立て器で九分立て(泡がもろっとする寸前の状態)にしたら、砂糖を大さじ1ずつ加え混ぜ、つやのあるしっかりしたメレンゲを作る。

メレンゲは泡立て器を持ち上げたとき、ピンと角が立ち、垂れない状態まで泡立てます。

- ② Aの半量を①に混ぜ、さらにBをふるいながら半量混ぜ入れる。全体が混ざったら、もう一度同様にして全量を混ぜ合わせる。
- ③ クッキングシートを敷いた金属製のざるに生地を流し入れ、170度に温めたオーブンで約40分焼き上げる。

全体がふんわりと膨らみ、きつね色に焼き上がったら出来上がり



ヨーグルトを水切りして出た水分(ホエー)は、肉を煮込むときに加えると、やわらかく煮上がります。またホットケーキを作る際に加えても風味が増します。捨てずに活用しましょう。